

長濱の社寺、刀狩りと兵農分離、大園檢地、石田三成の民政、村落結合、道路施設、都市の發達、秀吉薨後の黨争、石田三成の異圖、大津城の攻撃、關ヶ原の役、略年表）第十一章藩政々治と平和の連續（彦根、膳所の築城、諸藩分封、諸藩の民政、切支丹禁制と社寺復興、交通の發達、物産の興立、琵琶湖開鑿と瀬田川の浚渫、城下宿驛と商工都市、近江商人の活躍、學問の隆興、藩學の設立、一般文藝の發達、寺社の保護と復興、農民一揆と天保騒動、米艦渡來と井伊大老、諸藩と時局、略年表）第十二章明治、大正時代と文物の發達（滋賀縣設置、舊習一洗の政、新法施行、文化の發達、天皇御巡幸、自治の發達と人口増殖、産業と交通との發達、教育と社寺、勳功赫々たる九聯隊の災害と凶變、行幸と褒賞、悠紀田卜定、以上である。（滋賀縣發行、非賣品）（達）

大谷學會彙報

○十一月三日（木）明治節、午后一時より大谷學會主催の秋季公開講演會を催す。

一、報身觀の宗教心理的基礎

鈴木 大拙教授

一、起信論の眞如に就て 赤沼 智善教授
右講演は本號に於て鈴木教授の分を次號に於て赤沼教授の分を掲載すべきにつき講演要旨を附記せず。

研究室彙報

佛教研究室

佛教研究會

○十月三日（水）午后三時より研究室例會を開く
講師演題左の如し。

一、起信論に於ける佛三身の原語を論ず

日暮 京雄氏

來聽者稻葉學部長、山邊主任、鈴木太、寺本、泉大河内等の諸教授を始め學生多數。

哲學研究室

哲學會

○十月五日（土）午後七時より圖書館樓上に於いて哲學會例會を開く。

講師——青木教授

演題——莊子の辨證論に就いて

人文學研究室

史文會

□十月廿三日午后三時より圖書館樓上に於て例會を行ふ。

講師 三高教授 藤田 元春氏
演題 東洋都城論

其の要旨左の如し。

西歐諸國に於ける都城の發達は凡て交通便利の中心即ち河川港灣などに發達してなれるものなるが東洋の都城は全くそれと趣を異にし所謂帝王の宮を中心として成立發達したものである。即ちその理想は濠を深くし朋を高くする覇者の城にあらずして世界を包含した王者の住宅を示して居た。東洋都城建設の初は召公が洛邑に都を卜し周公此處に都城を建設したに初まる。冬官考工記に匠人京國方九甲旁三門國中九經九井九軌と見えたるが之京都御所と全くその構造を一にし東洋の都城は要鎮國境などの觀念なく四通發達圓融無碍なるものである。王法と佛法とは何處までも超越せるものである。故に本願寺の如きは柵があまりに高すぎるではないか、尙冬官記に左祖右廟後市とあるが王者の宅は正殿左廟左祖右廟よりなり之又不思議なるかなや我が御所の悠紀王基の兩殿と全く同じである即ちその宅は王宅といふよりも祖先大神のものでその宅に在す王は四通發達の中心は超然として治め給ふといふ理想が存してゐるものである。

國史研究會

□昭和三年九月三十日洛北大原方面へ史蹟踏査を爲す。主として見學せし箇所は左の如し。

三千院、勝林院、來迎院、寂光院。

□十月二十八日洛西松尾村方面へ史蹟踏査を爲す主として見學せし箇所は左の如し。

法輪寺、松尾神社、延朗上人堂、西芳寺、淨住寺、地藏院。

□十一月十七日より十八日に掛けて大和飛鳥方面へ史蹟踏査を爲す。參加人員橋川、大庭、佐藤、中島諸教授、石崎助手、學生盛田以下十六名。見學箇所

聖林寺、阿部文殊院、文殊院西古墳、山田寺、飛鳥大佛、酒槽石、岡寺、橘寺、弘福寺趾、檀原神宮、久米寺、當麻寺、祭山寺。

編輯後記

○遅れ勝ちに發刊されてゆく本誌を是非本號に於いて回復し度いと念願努力しながら、種々の事情に災せられて又遅刊の止むなきに至りました。深く御詫申上げます。次號よりとりかへしてゆく覺悟です。

○十一月三日大谷學會主催第一回公開講演に於ける鈴木大拙教授の講演を速記に附し、御校閱を願つて本誌に掲載しました。巻頭「報身觀の宗教心理的基礎」がそれです。次號には同じく赤沼智善教授の講演「起信論の眞如に就て」を頂く筈です。○新春を迎ふるに當り偏へに讀者諸氏の御健康を祈ります。(福井)